

令和4年度 大阪府食育推進計画評価審議会（概要）

- 日時：令和5年3月20日（月）午後3時から午後4時50分
- 場所：国民會館 武藤記念ホール 小ホール
- 出席委員：池上委員、伊藤委員、上野委員、大川委員、北田委員、木山委員、久保委員
林委員、藤原委員、三宅委員、森委員、由田委員 12名（50音順）

1 会長の選出 委員の互選により、藤原委員が会長となる

2 議 題

(1) 第3次大阪府食育推進計画の進捗状況について

→第3次大阪府食育推進計画 令和4年度 PDCA 進捗管理票については案のとおり承認

【委員意見】

- ・いろいろなことをやっており、努力していると評価したい。
- ・V.O.S.を進めていく際に、新しい食の供給手段というところに目を配っていくことが大事。キッチンカーやデリバリー等、大阪でどういった動きがあるのかを押さえながら、どこに働きかけたらいいかを考え、新しい対応が要ると思った。
- ・健康増進は前向きであって、楽しくないと進まない。ただ、減塩等は規制をかける話になるため、そのあたりのバランスが非常に大事。
- ・出汁をきちんと取るとか食材の味を活かすというような基本的なところを工夫していく必要がある。地産地消も非常に大事で、そういう取り組みが促されるよう後押しして、農協や漁協も必要だと思うし、企業も入って皆で盛り上げていくことが大事だと思う。
- ・チェーンストア協会と、広く地域に根差し、どこでもやっているという風にするのが大事
- ・今までチラシで健康を考える献立等が置いてあったが、最近は SNS を活用して見ることになっている。高齢者はこれから低栄養を考えていかなければならないと思うが、パソコンを開けて調べるとこのきっかけや高齢者がそこにつながりやすい方法が何かあれば。

(2) 「食生活」についてのアンケート調査結果について

【委員意見】

- ・朝食を食べる頻度と、野菜量等をクロス集計すると、朝食欠食が一日の食事バランスを悪くするというのが調査で分かるので、大阪府民の傾向がわかるのではないか。
- ・年代に応じたアプローチが必要。コロナ禍で ITC 活動が進み、若い人たちにはそういうアプローチの仕方が必要だと思う。学生はスマホ一つでいろんなことが出来ていく世代になっているので、学生は基本的にそういうもので情報をキャッチする。単なるメルマガじゃなくて、動画のような、リールのような感じのものでアプローチが出来たらいいと思う。
- ・対面で調理実習が出来ていないのがすごくリスクが大きいと思う。自分で生活するようになると、やっぱり先立つものは生活費ということになって、食事の方までいかない。タブレットの中で料理はしているけど、こごぞというところのポイントは伝えてあげないとわからないまましてしまう。やはり対面でやることが大事。煮物もこういう風にして、簡単に作り置きができるから、こういう風にして食べなさいと言う機会がないのがすごく残念
- ・野菜の値段が高いところ、本当に高いのか、ちゃんと訴えていくべきだという気がする。地産地消と関連させて、

直売所等で買うと比較的割安で新鮮で地元のものを買えるというところをもっと周知すべき。

- ・スーパーの売り方の問題とか、品揃えとかもあるのかなという気はする。
- ・エネルギー量が増えたら塩の摂取量が増えるので、国民健康・栄養調査ができるようになったら、中身がわかるような対応をして欲しい。
- ・朝食抜きというところで気になるのは、若い子の夜更かし、朝昼兼用になってしまっていないか、その結果、朝抜きという表現になっていないか。高齢者も朝昼兼用という人も結構いるので、そのあたりどうなのか。喫煙者は朝気分が悪いから食べないという人もいるので、喫煙者の比率が高くないかということ、そのへんと朝食欠食ということの中身を検討して頂けたら。
- ・今学校給食は週 5 回の内、米飯給食が 3.8 回、パン給食が 1.2 回。今まではパンに食塩 1.8%、もつと昔は 2%入っていた。それを 5 回毎週食べていたが、2%が 1.8%になり、1.5%の市町村が徐々に増えてきている。調味料は、塩を抜いた食酢、本みりんとか、本当の料理酒を扱っている。地産地消については、旬に採れた竹の子水煮にして 1 年間安定供給している。また、ミカンも旬にとれたものを缶詰にして 1 年間安定供給している。

- ・学校給食だよりを年 4 回発行し、府内の全小学校と関係先に配付。それぞれの市町村の取り組みを紹介

(3) 第3次大阪府食育推進計画の最終評価及び次期計画の策定について

→大阪府食育推進計画の改定に向けたスケジュール、次期大阪府食育推進計画の方向性については、案のとおり承認

【委員意見】

- ・期間が長くなったことでどう変わっていくのかが疑問。長いスパンになると始めから最後まで携わる人間がどれだけいるのか。長くなればなるほどすごく難しくなっていくと感じる。
- ・子どもを育てるのに野菜を摂らなければいけないということはすごくわかる。本当に必死に子どもに野菜を食べさせているが、その食費を捻出するのが今の社会ですごく大変だと感じる。
- ・若い子も食事をしてエネルギーや栄養素を摂らないといけないというのはわかっている。そんな中で今ってサプリメント等を摂って補う子も多い。そこが全然入ってこないのが、ある意味私の中では不自然で、そこも一緒に考えていけたらと思う。
- ・物価は上がっているが、野菜の価格にはそれほど転嫁されていない。いいものを作っていくと農家はがんばっている。高齢化、担い手不足、農地の減少が課題であり、農地を守り、農家を育てることも根底では食育、各団体でも協力して欲しい。
- ・食料・農業・農村基本法の見直しが進められている。食料が確保できず、価格が高騰しているという課題があり、肥料、燃料を輸入に依存している。農業をどう続けていけるのかを考える時に来ている。
- ・食べること的前提である農産物・食料の供給が脆弱。農業の担い手、若い人の呼び込み、地域としてどうやっていくか考える必要あり。食料を確保することを前提とした食育計画を策定しないといけない。
- ・計画期間が長くなるので、中間評価については考えていくべき。
- ・食育は永遠のテーマである。推進した結果的なものをさらなる食育の推進につなげることができる。良い提案をだし、モデルをつくり、データを収集する。5 年、10 年とつなげていくとよくなった点ができる。それを推進につなげていくべき。
- ・運搬料が高くなっている中、余計に地産地消の必要性がある。小さい子どもにお米作り体験をさせている。食の大切さ、ありがたさ、ものへの感謝を伝えるため、地元の農家と一緒にできればと思う。農協に後押しして欲

しい。農家が良い形につながっていくようなものを、食育推進で目指していくことが大切。